

.....編集後記.....

◆今月号は依頼稿を中心に通常号として構成した。寄稿された吉田・田崎両氏と小宮ほかの各氏にお礼申し上げる。丸山氏らによる太古代地球史の研究は、今回を第1回として数回にわたる連載になる予定。松尾・浦島両氏による「山ヶ野金山」は「古い写真から」シリーズの第2弾である。私の「天竜川の鉱石運搬船」(1994年9月号)を見た岡田廣吉東北大学名誉教授から寄稿を勧められたという。ご協力いただいた岡田氏にお礼申し上げます。このシリーズは今後も続けるので、古い写真をお持ちの方、あるいはご存知の方はぜひ寄稿していただきたい。

◆続く6-7月号には神戸の震災についての特集を掲載する。この特集は、2月から準備を始めて本号と同時に編集を進め、企画構成・原稿依頼・査読・修正・レイアウトなどに少なからぬ時間を費やしたため、頭の中が飽和状態という感じになった。しかし、5-7月号の3冊を終ると、海外の調査に出かけるので、しばらくの間この欄に登場する機会は無くなると思われる。以下は雑感で埋めさせていただきます。

◆現代のように出版物があふれている時代には、雑誌を隅から隅まで読む人は少ないかも知れない。このような欄がどのくらい読まれるのか、書く側には分からない。執筆上の注意などを書いたこともあるが、どうやら編集後記まで読む人の中には編集経験のある人も多いらしく、この点では「釈迦に説法」でしかなかったようだ。(結局、執筆要領は2頁にまとめて、1993年8月号と1995年2月号に掲載した。)なかには、「忙しくて編集後記しか読んでる暇が無い」などと、当方を複雑な気持ちにさせる声もある。また、「仕事が地質を離れたため、購読

誌は『地質ニュース』だけになったが、編集後記は行間を読んでいる」などと嬉しがらせてくれる人もある。もっともこういう直接的な反応は稀だ。最近知人が単行本を出したが、数万部売れても反響は全く無かったという。本誌2月号の一部が朝日新聞4月1日のコラム『窓』に紹介されたが、これにも反響はきわめて少なかった。そういう時代なのかも知れないが、無気味ではある。こういう状況が出版界に粗製乱造の気分を生み出す危険性は無いだろうか。

◆この欄に反響が少ないからといって落胆している訳ではない。閉鎖的思考回路(1月号本欄)としか表現しようのない小役人的無理解もあって順調とはいえないが、読者諸氏の好意的な評価や支援によって本誌が支えられていると言えよう。

◆もう10年以上前のこと、ある雑談の場で、「地震が起これば予算が付くのだが」と言った男がいる。当人は軽い気持ちで言ったのかも知れないが、こちらは昨日のこのように鮮明に覚えている。この人物は昇進を続けて「有名」な「研究者」になったという。「白い猫でも黒い猫でも予算を取って来る猫は良い猫だ」というような風潮があるとしたら、これはもう荒廃した風景以外のなにものでもなく、その末路は退行進化そして絶滅である。

◆最後に、話題と文体が突然変わりますが、4月1日の人事異動に伴い、事務局が畠山・徳宿から山崎・清水に代ったことをお知らせします。誌面づくりの中核として一年間奮闘してこられた畠山浩之氏に深謝し、新しい職場での活躍に期待します。

(佐藤興平 記)

地質ニュース編集委員会

委員長：加藤碩一

副委員長：佐藤興平

幹事：宮崎光旗・奥村公男・石井武政

委員：今井登・岡村行信・杉原光彦・内田利弘・

野田徹郎・吉井守正・豊遙秋・佐藤岱生

顧問：林暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋博

事務局：総務部業務課広報係(山崎浩・清水真寿美)

〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所

地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3533

地質ニュースに対するご意見は編集委員会へ

地質ニュース	第489号 1995年5月号
	定価 ¥ 770 千実費
1995年5月1日 発行	
編集	工業技術院地質調査所
発行人	株式会社実業公報社
	代表者 林光生
発行所	株式会社実業公報社
	東京都千代田区九段北1の7の8
	Tel. (03)3265-0951 (代表) 千102
	振替口座 00110-6-32466
	麹町局私書箱第21号
印刷	小宮山印刷工業株式会社

©1995 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞が関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター(株)本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。品切れの際は店頭で注文してください。